

水稻の生育状況と今後の管理対策（第8号）

令和8年7月31日
新潟県農林水産部

- ◎ コシヒカリは、県調査ほの多くで出穂期となっています。
- ◎ 斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。被害を抑えるため、雑草管理及び適期の薬剤防除を確実に実施しましょう。
- ◎ 飽水管理^{*1}を出穂期25日後まで継続しましょう。
- ◎ 貴重な水資源を大切に使いましょう。

^{*1} 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

〔7月30日現在の県内全域の生育概況〕

【指標値（生育のめやす）に比べた生育状況】

- コシヒカリ：草丈「長い」、茎数「並」、葉数の進み「並」、葉色「やや濃い」
県調査ほの半数以上が出穂期となっています。
- 新之助：草丈「やや長い」、茎数「並」、葉数の進み「やや早い」、葉色「並」

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 7月30日発表の北陸地方1か月予報（8月1日～31日）は、平均気温は高く、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並か多いと予想されています。
- 新之助の生育は早まっており、出穂期も早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

病害虫防除

- 斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。斑点米被害を抑えるため、水稻の出穂後も、メヒシバ等のイネ科雑草が実をつけないよう畦畔・農道等の除草を継続し、カメムシ類の密度を抑えてください。また、出穂期を把握し、適期に薬剤防除を行いましょう。
- 新之助等いもち病に弱い品種ではいもち病の発生に注意し、発生が見られる場合は薬剤防除をしてください。

穂肥施用

- 新之助は、分施肥体系・全量基肥施肥^{*2}体系ともに、出穂3日前頃に葉色（SPAD値）を確認し、34未満の場合は、後期栄養を維持するため追加で穂肥^{*3}を施用してください。

水管理

- 根が養水分を吸収しやすい状態を維持するため、飽水管理を出穂期25日後まで継続しましょう。ただし、高温が続く場合は可能な限り出穂期30日後まで継続し、継続できない場合はかん水可能期間の終期には十分かん水しましょう。
- 用水が地域全体に行き渡るよう、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めましょう。

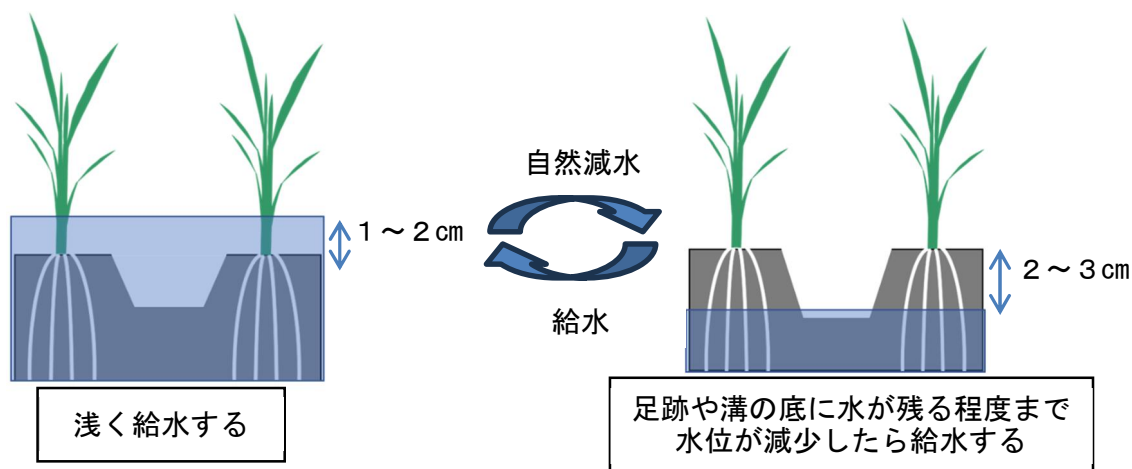
収穫、乾燥・調製

- 地域のＪＡや農業普及指導センターの最新情報を参考に計画を立ててください。特に、極早生・早生品種は出穂期が平年よりも早く、収穫適期も早まる見込みです。刈遅れとならないよう、早めに収穫準備をしてください。
- 籾の状態を早めに確認し、黄化割合が 85～90%くらいになった頃に収穫しましょう。
- 適切な乾燥作業により、胴割粒の発生を防止しましょう。丁寧な籾すり・選別を行い、未熟粒や被害粒等を除去し、整粒歩合を高めましょう。

*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

*3 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

飽水管理のイメージ



熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。
- 1人で作業されている方に対しては、周囲からの積極的な声掛けをお願いします。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数人で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



7月～9月は“夏の熱中症等対策声かけ期間”

キャッチフレーズ:いのちをうばう、夏のひとり作業



農作業中の熱中症死亡事故の多くは1人作業で発生しています。

大切な人の命を守るため、
家族や地域で声をかけあいましょう!

出典：農林水産省「熱中症対策パンフレット」より

○ 今後の管理対策発信予定日 8月20日

〔補足資料〕

1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月30日現在）

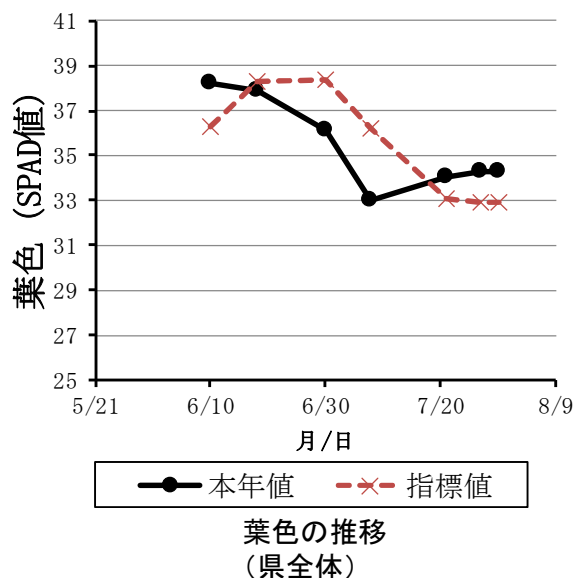
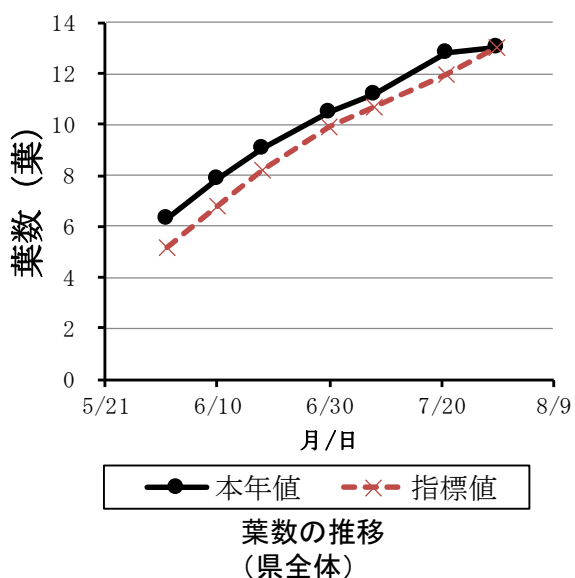
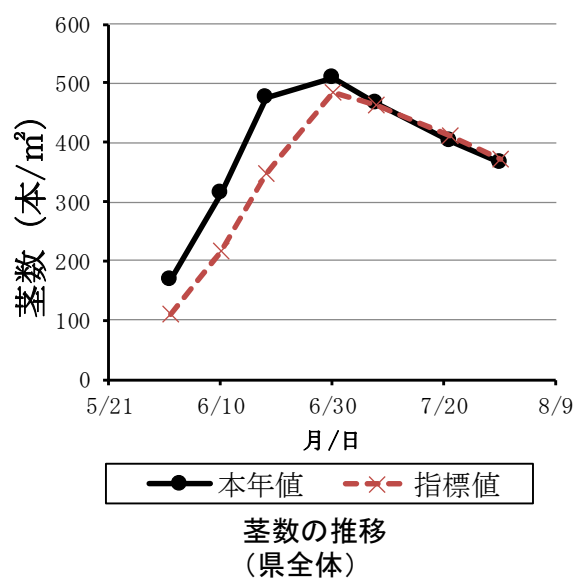
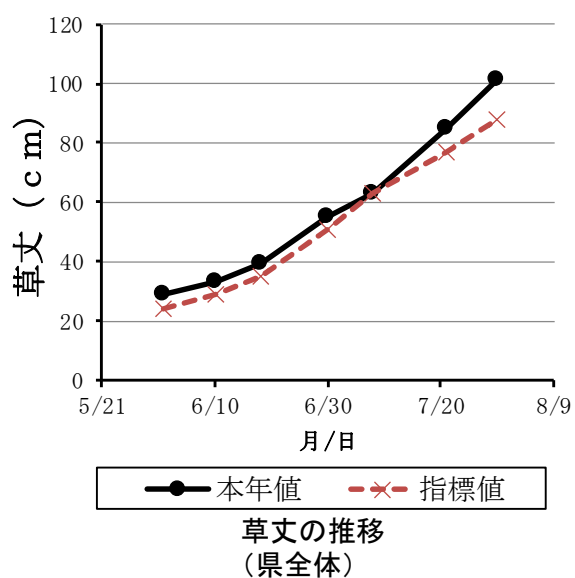
コシヒカリ

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」及び葉色は「やや濃い」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	101 cm	88 cm	長い	115%
茎数	367 本/㎡	373 本/㎡	並	98%
葉数	13.0 葉	13.0 葉	並	±0.0 葉
葉色 (SPAD 値)	34.3	32.9	やや濃い	+1.4

注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）

注) 調査ほ場の半数以上は出穂期となっている。

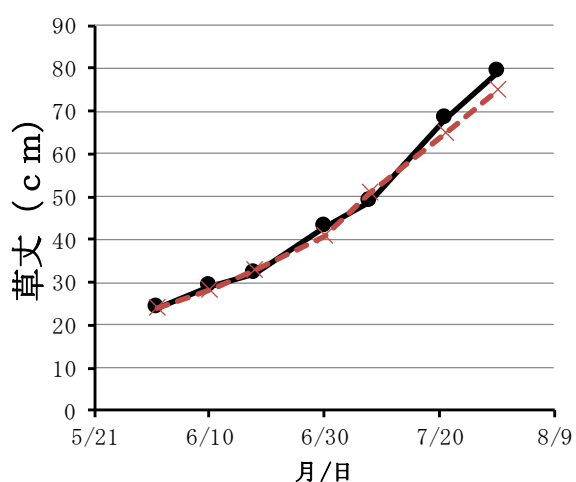


新 之 助

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」及び葉色は「並」です。

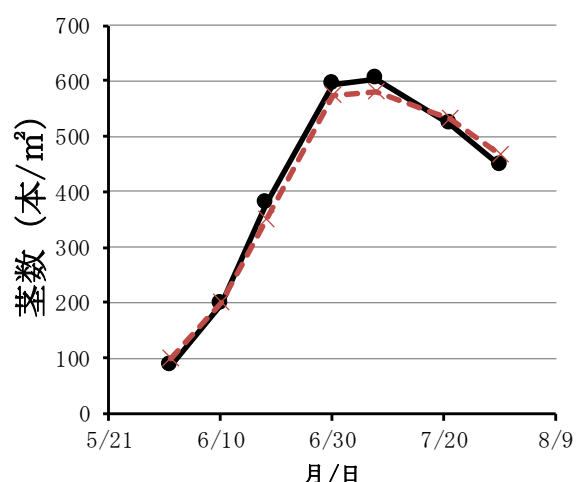
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	79 cm	75 cm	やや長い	105%
茎数	448 本/㎡	465 本/㎡	並	96%
葉数	13.8 葉	13.4 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	34.8	34.2	並	+0.6

注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月19日、栽植密度16.1株/㎡）



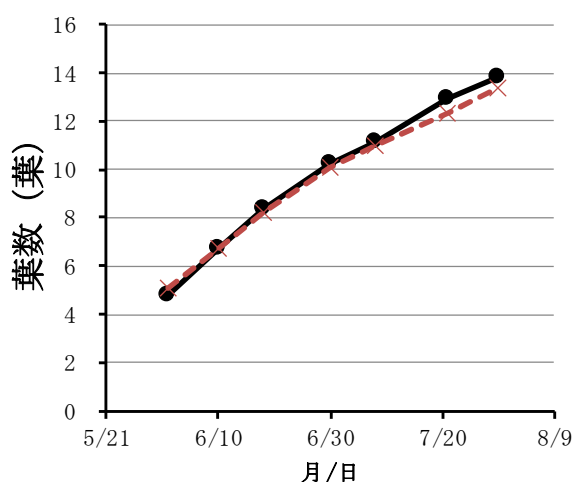
● 本年値 × 指標値

草丈の推移
(県全体)



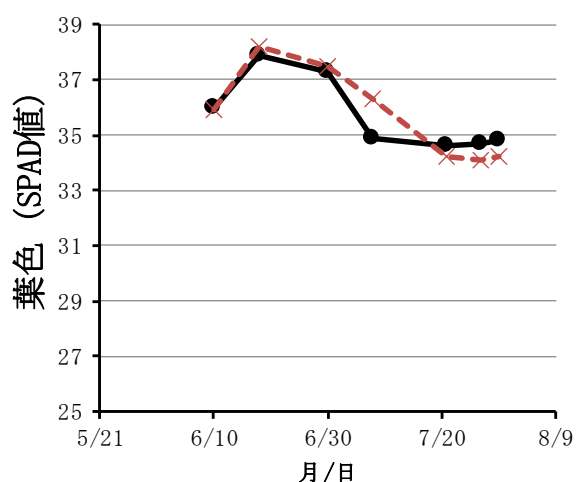
● 本年値 × 指標値

茎数の推移
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉色の推移
(県全体)

こしいぶき

(参考)

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「やや遅い」及び葉色は「濃い」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	86 cm	95 cm	やや短い	91%
茎数	358 本/m ²	417 本/m ²	少ない	86%
葉数	12.0 葉	12.7 葉	やや遅い	-0.7 葉
葉色 (SPAD 値)	37.7	34.7	濃い	+3.0

注1) 化学肥料栽培。田植え 5 月 11 日、栽植密度 20.5 株/m²

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量 3.0kg/10a (1.5 kg×2 回分施：1 回目 7 月 3 日、2 回目 7 月 10 日)

注3) 幼穂形成期：7 月 3 日、出穂期：7 月 21 日

注4) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

